マーチンガレージドア製のオーバーヘッドドアを開けると、ポルシェ・ケイマンSスポーツの美しさと、ガレージ内のカッコいい雰囲気が目に飛びこんでくる。

ガレージの横に設置したステッカー貼りの壁ガラスサッシは、適度なプライバシーと開放感を生み出す。中側からは外側の気配をうかがえる。

02

GARAGE LIFE EXAMPLE

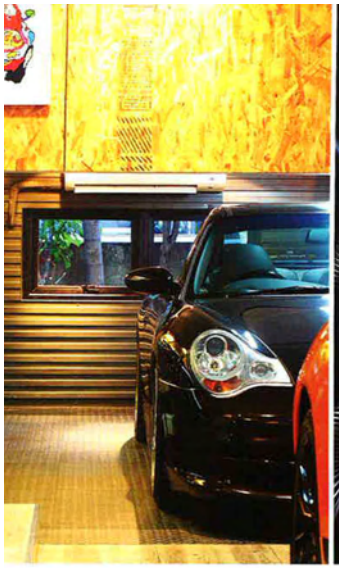
クールさと温かさ、2つの顔をもつ リノベーション・ガレージ。

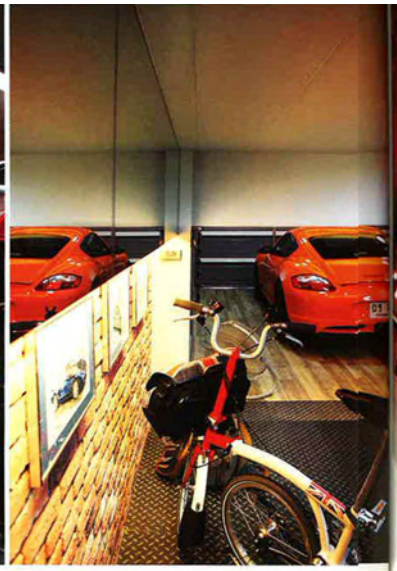
タイ・バンコク県　ピーラポン・イアムランナウ邸

日本語版の『Garage Life』に長い間憧れていたという
ピーラポン・イアムランナウさんは、タイ国の出版社に勤務。
そして本当に本誌と版権契約を締結し、2011年からタイ語版『Garage Life』を刊行している。
そんな彼が自宅ガレージをリノベーションし、理想の趣味空間をつくりあげた。

text/ スパチャイ・ルアンシューポン　photo/ スパチャイ・ローップラチョン

写真の右奥に見える空間が以前は特別なクルマの保管エリアだったが、現在は物置に。その左隣は物置だったのが、現在は特別なクルマのためのエリアに。

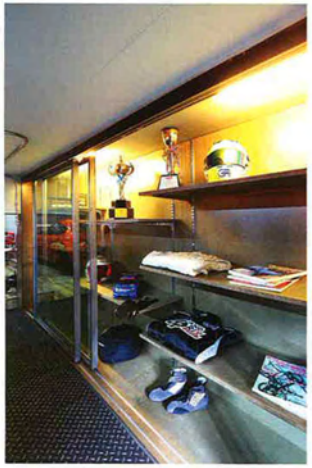




左／ガレージ最奥にはクールな黒色の鉄壁と、ガレージに太陽の光が差し込む窓が調和を見せている。
中／ガレージ内でエンジンを暖めるため日本から仕入れた、セーフティーライフ製のガレージ専用排気ガス排出システム『EG WayOut』。安全性のために必須なアイテム。
右／壁に鏡を張ったのは、空間を広く感じられる簡単なコツ。

02 インダストリアルなイメージを求め 設備・素材を選び抜いた。

GARAGE LIFE EXAMPLE
A RESIDENCE OF PEERAPHONG



ガレージの一方の壁には、スペースをかなり節約できる、ビバボードで作ったビルトインの棚が。将来的にピーラポンさんの様々なコレクションに対応可能だ。

タイ語版『Garage Life』は出版人であるピーラポン・イアムランナウさんにとって、初となるインターナショナル・マガジンの試みであり、思い入れもひとしおだ。自宅のガレージを『Garage Life』誌面で紹介されているガレージに近い雰囲気にしたい！ との欲求は、つのる一方だった。そしてやっと、家にある40㎡程の面積を、インテリアデザイナーのドーム・スリヤプロムシャイさんを相棒に、カッコいいガレージへとリノベーションすることができた。

ピーラポンさんの家は元々、6～7年前に200㎡の敷地に建てられた。それ以前はガレージが屋外だったため、家から歩いて行かねばならず、満足度が低かったそうだ。そこで、建物の1階部分を、物置エリア、特別なクルマの保管エリア、6台収納可能な普通のガレージエリア、として間仕切ったのだった。

タイ国の全ての家にあるガレージは、庭、寝室、居間と同様に綺麗に装飾できるとの確信から、彼は根気強く、自分の夢のガレージを構築していくこととなる。2011年の洪水危機の際にはなんとか被害を免れることができたのだが、この体験は、ガレージのリノベーション計画において重要なモチーフとなった。ピーラポンさんとインテリアデザイナーのドームさんとの共同計画は、生活空間につながるガレージの実現と、さらに洪水被害の阻止もできるというものだった。

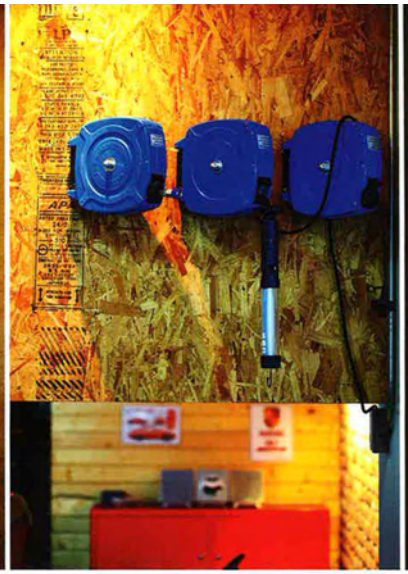
そこで物置と40㎡のクルマ2台用ガレージを、ポルシェ911とケイマンSスポーツの2台のためのコンパクトなガレージに再構築することとなった。居住空間から階段を降りた所にあった物置の壁を一部取り壊し、透明ガラスの扉を設置。このことで、キッチン・ダイニングの空間から階段エリアを経てガレージまで動線がつながり、さらに、家族との関係をつなぎたいというイメージも貫けた。それぞれの場所で各自が好きな活動をしていても、お互いの様子を眺め合うことができることになったのだ。

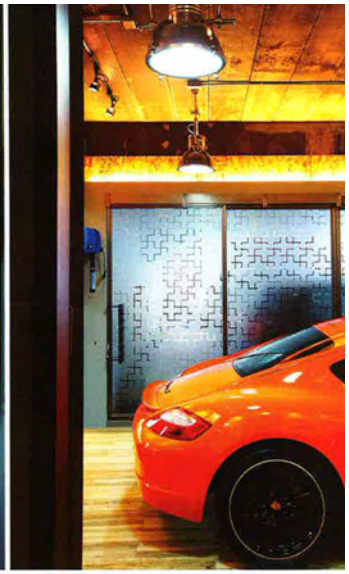
一方、洪水被害の対策として、元々この家の構造は天井が低く、しかも梁がある程度下がっているせいで、もし床にタイルを張れば、クルマが入れない恐れがあった。そのため、『グリーン・テクノロジー・エンジニアリング』社の"GRACIO アスファルトタイル"（これは"バンコク中古車&輸入車ショー 2012"で使用されたことがあった）を貼ることに。長所は水を吸い込むことによる劣化がなく、貼り方もカンタン、破損した場合には剥がして接着剤を付け直すことも可能といった点。さらにドームさんの選んだ接着剤は特に接着力の強いもので、ガレージ床に対応できた。コレクションを置くための奥のショーケースは、木材より破損されにくく耐久性をもつビバボードとモルタルを使い、ビルトインとして造作した。

自分の求めたことを実現するために様々な材料・素材を選んだ上で、ガレージ内をキッチリと装飾することにもこだわった。キーワードは、工業デザインでよく言われる"Less is more"「より少ないことは、より豊かなこと」。そのため、ガレージエリアを2つに区別し、奥のエリアは鉄の模様のゴム床材、手前のエリアは木

ガレージの床は本物さながらの、鉄の模様、および木材の模様のゴム床材を貼り分けて、2つのエリアの雰囲気を区別している。これは容易に設置可能。

ガレージからポルシェ 911 かケイマン S スポーツを外に移動させれば、家族や親友などと一緒に楽しめるエリアに早変わりすることもできる。



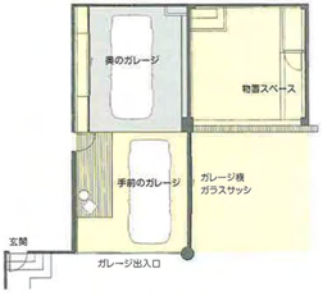


左／以前にレーシングシリーズに参戦していた際のスーツやトロフィーなど、ピーラポンさんのコレクションがガレージ内にディスプレイされている。
中／コードリールやホースリールなど（排気システムと同じセーフティーライフ製）はディスプレイとして設置され、ファクトリーな雰囲気づくりに一役買っている。
右／ガレージ内に調和された電灯の光。素材に濃淡の陰影をもたらすようにセレクト。

C COMMENT FROM A BUILDER

Dream Garage Design & Construction 社
ドーム・スリヤプロムシャイさん

設計をする前にピーラポンさんのご要望と、建物の構造や地域制限などを理解する必要はあり、それを知ってから設計を描きました。この仕事はかなりのチャレンジだと思っています。物置という元々の構造をアレンジした結果、インダストリアルでありながら家から遠なり、家族の皆さんに対応できるガレージ、言わばピーラポンさんのご要望の通りにできました。ガレージの装飾については、将来的に変更・追加する可能性があるということを念頭に設計しました。



床に段差を設けて、机や椅子を置いて愛車を眺めるためのスペースを区別。

02 PLANNING DATA & MATERIALS

GARAGE LIFE EXAMPLE
A RESIDENCE OF PEERAPHONG

いくつものエリアを有機的につなげ 家全体に調和を与えている。

の模様のゴム床材で貼り分けることで、ガレージは2つのテイストで心理的にも区別されるようになった。配線は天井に巡らせて、コンクリート天井に調和を与えている。将来的に追加でアレンジする可能性はあるため、レールを上下、左右に調整できることにした。

奥のガレージの片面には棚だけでなく、広く感じられる鏡を設け、煉瓦、木材も組み合わせている。最奥は日光が差し込む窓と、鉄の壁が用意され、素材の多様性を楽しめるようになっている。

一方、手前のガレージは壁にOSB合板を張り、間接照明を組み合わせることで光の濃淡を生み出した。ここではピーラポンさんが愛車を眺めるために、テーブルや椅子などを設置して、奥のファクトリーな雰囲気と区別。壁の1面は開放感のある大ガラスサッシとしつつ、プライバシーを考慮して、「＋」マークを組み合わせた不透明色のステッカーを張ったという。万が一にもサッシがレールから外れて倒れ、人が怪我をしてはいけないと、鋼板を3枚、扉の端に据える安全対策も施している。

自分のコレクションである書籍、トロフィー、レーシングスーツなどがショーケースにディスプレイされているガレージ。他にも、このガレージの一部は子どものためでもあるとアピールするために、子ども的な純粋さを表現する日本の画家、蠣友宏さんの絵画（『Garage Life』タイ語版のレセプションの際にもらった物）をガレージの一部に飾っている。そうして、クルマを1台取り出せば、家族や親友たちとのレクリエーション・エリアに早変わりするし、また、ピーラポンさんの暇な時には1人でこのガレージで愛車を洗ったり磨いたり。そんな具合に空間の活用法を自在に調整できるガレージは、当初の念願以上の仕上がりといえるだろう。

P PLANNING DATA

所在地●タイ国バンコク
施主●ピーラポン・イアムランナウさん
竣工●2012年10月
構造●鉄筋コンクリート造
ガレージ面積●約40.00㎡
愛車●ポルシェ 911
　　ケイマン S スポーツ

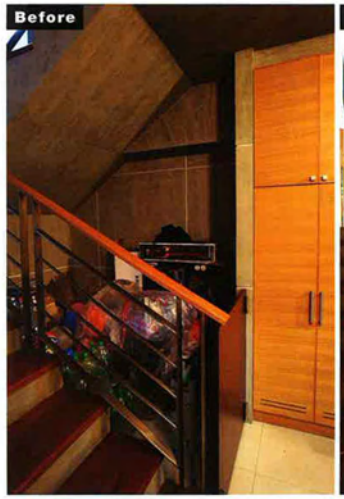
O OWNER'S CHECK

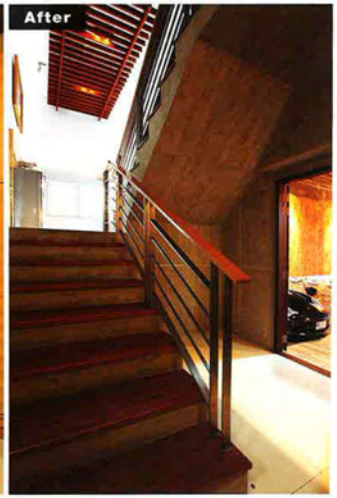
■一番気にいっているところは?
ガレージのあらゆる面です。自分の要望に応えた仕上がりなのです。

■ちょっと失敗したところは?
ないです。このガレージは完成したばかりですので、もっともっとディスプレイしていきたいと思います。

■次の夢はなんですか?
マーチンガレージドア製オーバーヘッドドアの上の部分の壁に、映画を映すプロジェクターを設置したいと考えています。クルマの中に座り、ウィンドウを開け、エアコンをつけ、映画を見て気分転換したいです。

■読者へのアドバイスを!
自分がいろんなアイデアを考えて工夫してもらいたいです。そして、事前に自分のイメージを設計者にいかに伝え、共有するかが重要だと思います。私のガレージの場合は、自分の会社である「Dream Garage Design & Construction」社を利用しました。弊社はガレージ用のコンサルタントで、タイの読者の方が利用したいと思えば、喜んでサービスを提供いたします。





キッチンエリアや食卓からガレージにまでつながる、居住スペースの階段周辺。物置スペースだったが壁に穴を開け、扉として作り直した。